



- 1 このコラムは、書かれている内容で三つに分かれます。二番目と三番目の内容が始まる最初の二字を書きましょう。

二番目の始まり:

何も

三番目の始まり:

涙は

- 2 コラムはどのような順序で書かれていますか。【1】で分けた三つの部分それぞれについて下記の表の様にまとめました。文章の構成を語群Aから選んで書きましょう。また、それぞれの部分の内容や役割にあてはまるものを語群Bから選び、番号で答えましょう。

	1番目の部分	2番目の部分	3番目の部分
文章の構成	導入	本題	結論
内容と役割	2	1	3

《語群A》

結論 本題 導入

《語群B》

1. コラムのテーマについて、事実関係などをくわしく説明している。
2. コラムのテーマに合う雑学などを引用し、読者を引きつけている。
3. コラムで示した事実や根拠をもとに、筆者の考えを述べている。

- 3 筆者が、傍線部「何も言わない方がいい」とさえ思ったのはなぜですか。最も適切な理由を選んで番号を書きましょう。

- ① この場面では、日本語よりもイタリア語で言う方がふさわしいと考えたから。
- ② 筆者の感動の大きさを言い表すのに、適した表現が見当たらないと感じたから。
- ③ 感動して胸が熱くなり、言葉を発することができるか分からなかったから。
- ④ 「勝てるのはずっと先」と思っていたため、予想外の結果に言葉が出ないから。

2

筆者が「コンムオーベレ」という言葉を最初に紹介したのは、池江選手の活躍が「感動を超える感動」だったからだと考えられます。感動が大きすぎて、言葉が見つからない、と思ったのですね。

編集手帳

「大きな感動」あるいは「感動を超える感動」といった表現でもまだスケールが足りないとき、イタリアの人は「コンムオーベレ (commovete)」と言うらしい。◆『翻訳できない世界のことば』(創元社)で、著者のE・F・サンダースさんは次のように説明している。「涙ぐむような物語にふれたとき、感動して、胸が熱くなる」——と教わって辞書で調べてみたところ、やはり日本語に当てはまる語句は見つからなかった◆何も言わない方がいいとさえ思う。競泳の池江璃花

子選手が、東京五輪のメドレーリレー代表に内定した◆「勝てるのはずっと先のことだと思っていた」。白血病の発症から、2年余りしかたっていない。日本選手権女子1000メートルバタフライ決勝で、1位でゴールしたことがわかった、水のなかで肩をふるわせて泣いた。その涙に感動し、胸を熱くした方は多いことだろう◆涙はしょっぱい。アンデルセンは言ったという。「涙は人間がつくる一番小さな海である」。20歳のアスリートが流した涙は、命のまぶしさでは世界の七つの海が束になってもかなわないだろう。

このコラムは

最初の「導入」部分で「コンムオーベレ」という言葉を紹介し、次に「本題」部分で「池江選手の活躍を詳しく述べています。最後の「結論」部分では、筆者の感動を改めて伝えています。

読んでみよう！

◆ミー太郎のおすすめ記事

編集手帳

一首のなかに「いのち」という言葉が2回出てくる短歌がある。△桜ばなのち一ぱいに咲くからに生命いのちをかけてわが眺めたり▽◆岡本かの子が詠んだのは、散る気配もない生き生きと咲き誇る桜の姿だろう。△桜の花のいのちへの思いが分かるから、自分も精いっぱい気持ちでながめるのだ▽と解釈されることが多い。速報を聞いて胸が波打った。すこしだけ落ち着きが戻ったとき、かの子の歌が浮かんできた◆精いっぱい気持ちでこれからを見守るとしよう。競泳女子の池江璃花子

さん(18)が白血病と診断されたという◆「いまだに信じられず混乱している状況です。治療に専念し、1日でも早くさらに強くなった姿を見せられるよう頑張っていきたい」と自らツイッターで明かした。この△血液のがん▽は昔に比べて、治る人がめざましく多くなった。そのことを十分理解しているらしく、前向きさも伝わる。この何年かで記録の壁をどんどんはねのけたように、病気にも打ち勝ってほしい◆快癒と五輪の金メダルはどちらの喜びが大きいか。プールサイドでそんな質問のできる日を、みんなが待っている。

2019. 2.13

(2019年2月13日 読売新聞朝刊より)

池江選手は、約2年間病気と闘たたかってきたのですね。

あなたがこの2年間、がんばったことはなんですか。





学習指導要領との対応表

読むこと		構造と内容の把握	精査・解釈		
		ア	イ	ウ	エ
設 問	1	○			
	2				○
	3				○